

AKIBA HOLDINGS

2024年3月期

決算説明資料

2024年5月15日



1. トピックス・概況

2. 2024年3月期決算

3. 2025年3月期業績予想

4. セグメント別概況

5. 参考資料

AKIBAホールディングスグループ 会社説明

※資料中の数字の単位は、別途指定ない限りすべて百万円

01

トピックス・概況



売上及び売上総利益は通期ベースで前期を上回るものの、 成長投資による販管費の拡大及び減損損失の発生等から減益

前期に比べ売上高及び売上総利益は上回るものの、他の各段階利益で減益

特別損失の発生

経済環境の変化に対応する事業基盤の強化を推進

2024.3期からセグメント名を変更

メモリ・PC関連デバイス・IoT事業において、メモリ製品の販売が低調であることや、一部IoT製品の開発の遅れや主要案件の量産が次機種への切り替えを控えた減産などから利益が落ち込むものの、通信建設テック事業とHPC事業が牽引し、売上高及び売上総利益については前期を上回るが、将来の利益確保のための成長投資による販管費の拡大等の要因から、営業利益以下の各段階利益で減益

2022年11月に連結したリーバン社に関し、自然災害等に起因した工期の遅れ及び売上の計上時期のずれ等による事業計画の未達により、のれん約217百万円を減損し特別損失が発生。

グループ間シナジーを強化し、収益力の改善を図る方針

経済環境・社会環境の変化から不透明感が存在するため、先行きに対し注視が必要なものの、環境変化に対応したビジネスモデルの組み換えを実施し、安定した収益の獲得が可能な骨太な事業基盤の整備を進め、新規商材の投入、M&Aを推進するほか、通信建設テック事業において新規分野に進出するなど、収益力の強化を進めております

各事業セグメントの事業内容に従い、メモリ・PC関連デバイス・IoT事業(旧メモリ製品製造販売事業)、通信建設テック事業(旧通信コンサルティング事業)へと一部セグメント名を変更

収益機会の拡大を図るため、事業基盤の強化を進め、成長投資を実行

2024年3月期においては、コロナ禍及びウクライナ情勢等に影響を受けた世界経済は、回復基調にはあるものの、依然、マーケット環境・為替状況の急激な変化から不確実性が強く、先行きが不透明であり、不安定な事業環境が継続しております。

このような中、売上高については堅調に確保したものの、一部事業の遅れや成長投資の実行、減損損失の発生などにより、減益となっております。

2025年3月期の通期予想については、事業規模の拡大から増収と計画するものの、成長投資の継続の方針から、営業利益、経常利益ともに減益と予想しております。

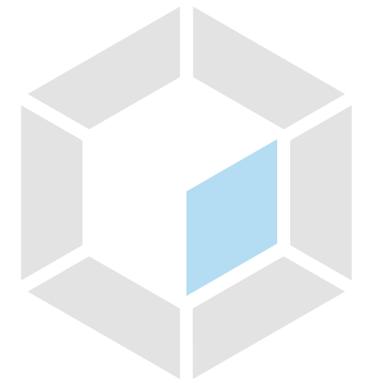
事業の成長を図るための投資を継続することにより、2025年3月期も一時的な減益は継続するものの、新規商材の投入、M&A等による成長事業への戦略投資、事業執行体制の整備等を推進することにより、事業基盤の強化を継続し、収益力の強化を図ってまいります。

※本資料に記載されている業績見直し等の将来に関する記述は、当社が本資料作成時点において入手可能な情報及び当該情報に基づく過程に依拠しているため、リスクや不確実性を含んでいることから、実際の業績等は様々な要因により業績見直し等とは異なる可能性があり、当社がその実現を約束するものではありません

	2023/3 実績	2024/3 実績	前期比	2025/3 予想	前期比
売上高	15,007	15,848	105.6%	17,500	110.4%
営業利益	1,063	838	78.9%	750	89.4%
経常利益	1,031	844	81.9%	750	88.8%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	702	292	41.7%	500	170.9%
一株当たり 四半期純利益	76.44円	31.85円		54.43円	

02

2024年3月期決算





メモリ・PC関連デバイス・IoT



株式会社アドテック

メモリ及びコンピュータ関連製品・IoTソリューション事業 等

通信建設テック



株式会社バディネット

株式会社リーバン

株式会社ブランチテクノ

通信建設工事業、通信土木事業、コンタクトセンター事業 等
※ブランチテクノは2024年4月1日に連結子会社化

H P C
(高性能科学技術計算機)



株式会社H P Cテック

高性能計算機の開発・製造及び販売事業

その他
(旅館ほか)

Diamond pets & resort

株式会社ダイヤモンドペット&リゾート

旅館事業、ペット商品事業、IT事業、イベント事業、不動産事業 等

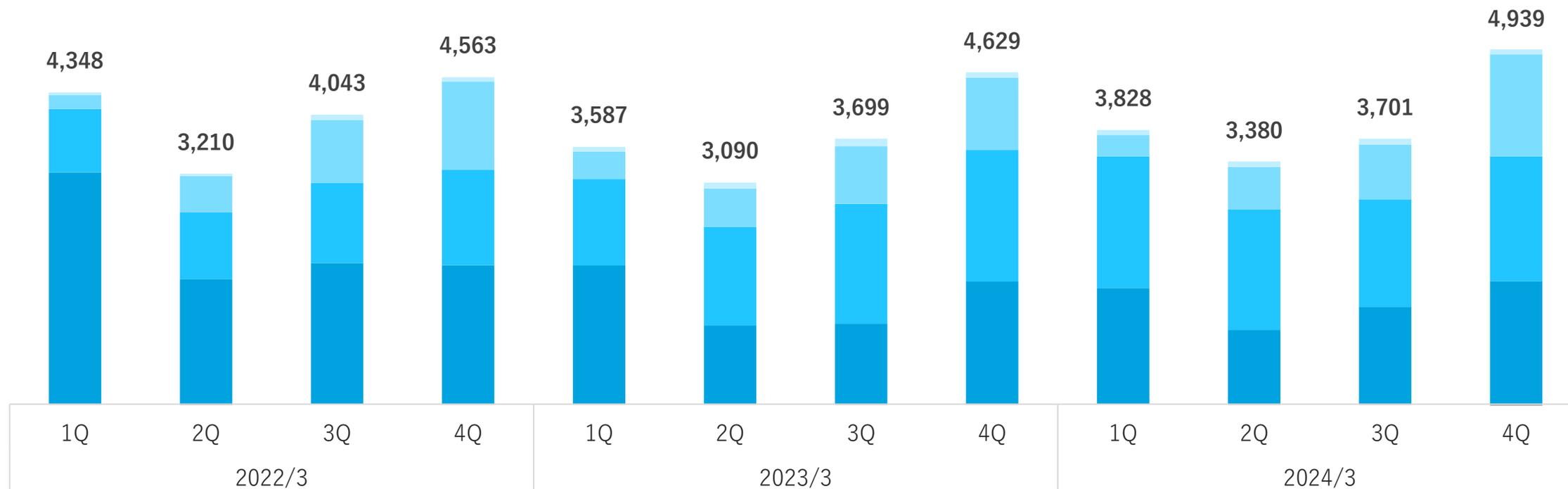
売上高に関し堅調に確保するものの、将来への成長投資による販管費増等の影響により営業利益は減益

	売上高	前年同期比	営業利益	前年同期比	トピックス
連結	15,848	105.6%	838	78.9%	
メモリ・PC関連デバイス ・IoT	5,743	97.8%	△42	—	メモリ関連製品の利益率低下、一部製品の開発の遅れ、主要量産案件の減産等の要因により減収減益
通信建設テック	6,751	110.8%	482	87.5%	完工件数が順調に積みあがり過去最高の売上高を達成も、事業規模の拡大のための販管費増により、前年に比べ減益
HPC (高性能科学技術計算機)	3,091	113.2%	322	128.5%	前期から推進の収益力改善努力が功を結び過去最高の売上・利益を達成
その他 (旅館ほか)	262	86.2%	77	162.9%	(全社費用等の調整額を含む)

通信建設テック事業とHPC事業の牽引により堅調に売上高を確保

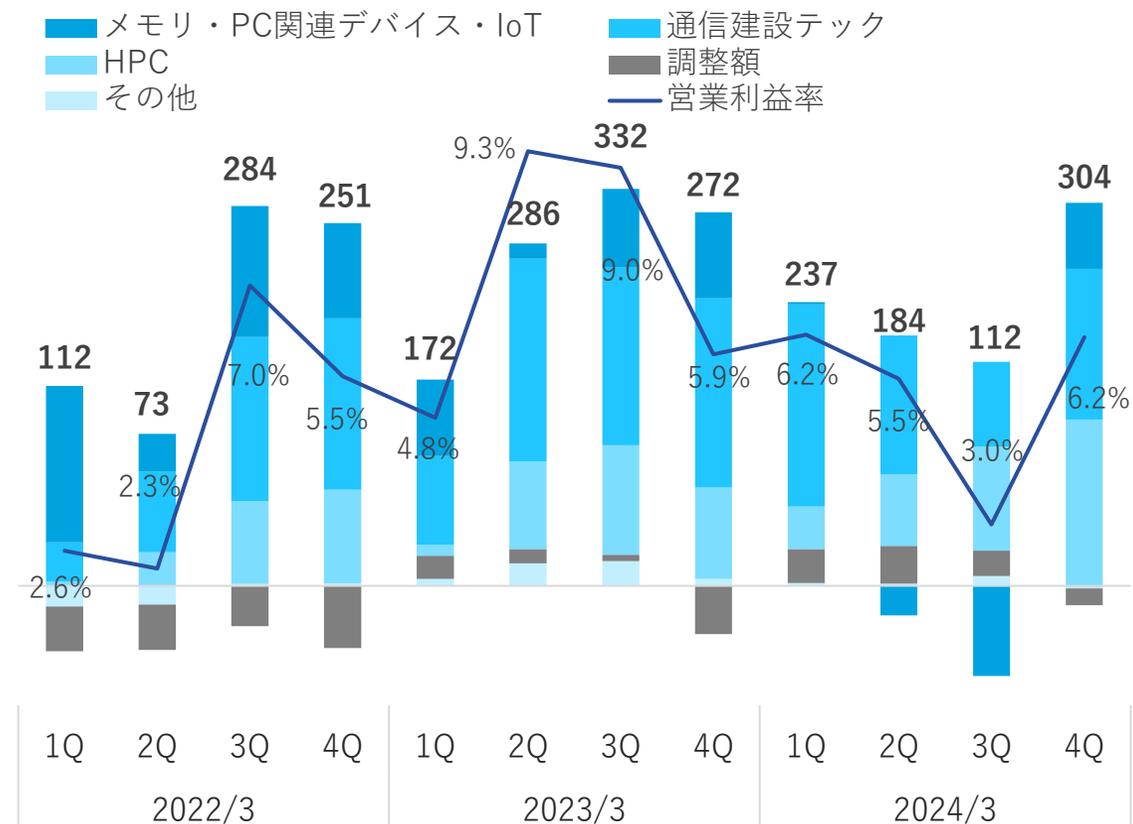
連結売上高

■ メモリ・PC関連デバイス・IoT ■ 通信建設テック ■ HPC ■ その他 ■ 調整額

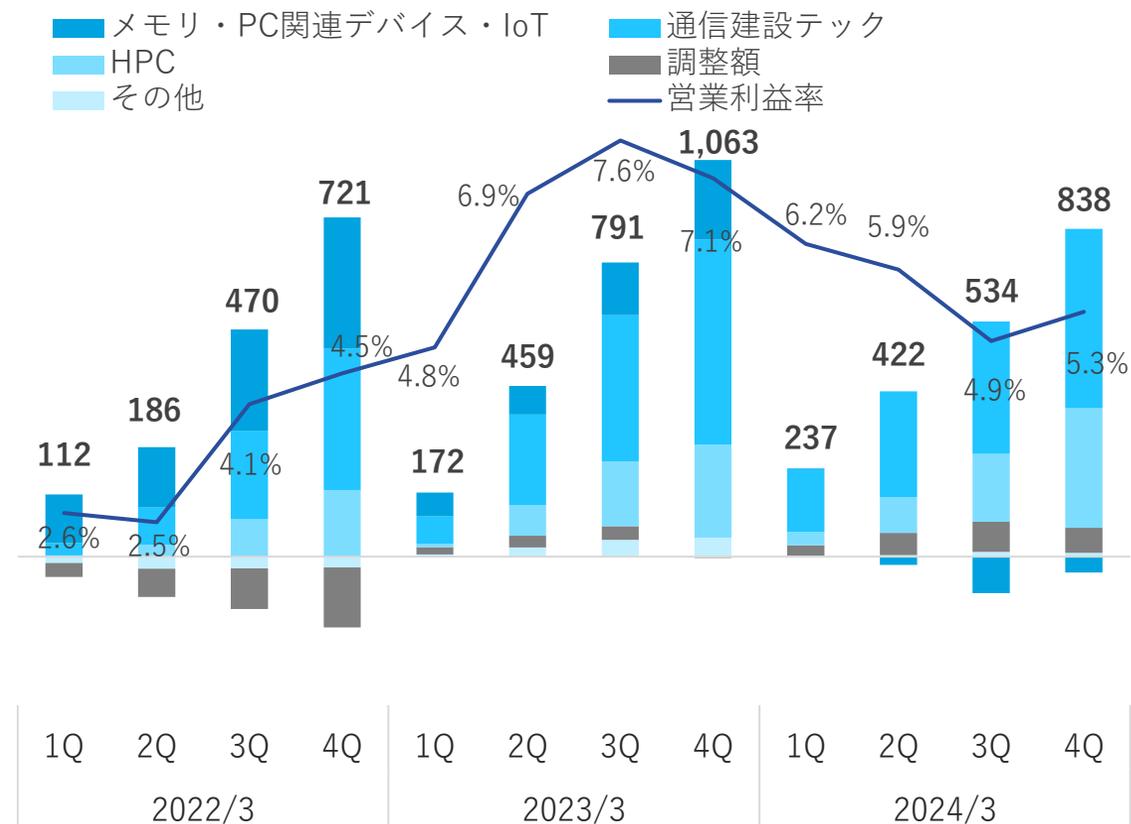


成長投資及び一部事業の遅れにより前期に比し減益も 通信建設テック事業とHPC事業の下支えにより高水準を維持

連結営業利益 会計期間



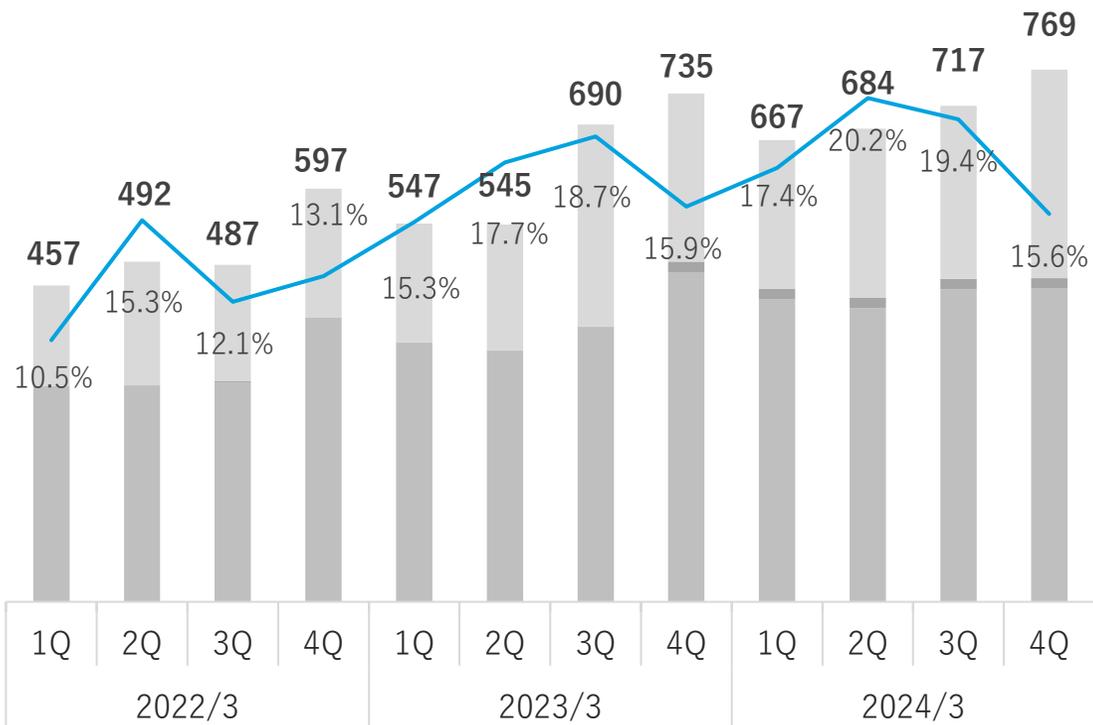
連結営業利益 累計期間



事業の成長性確保のため、体制強化を促進

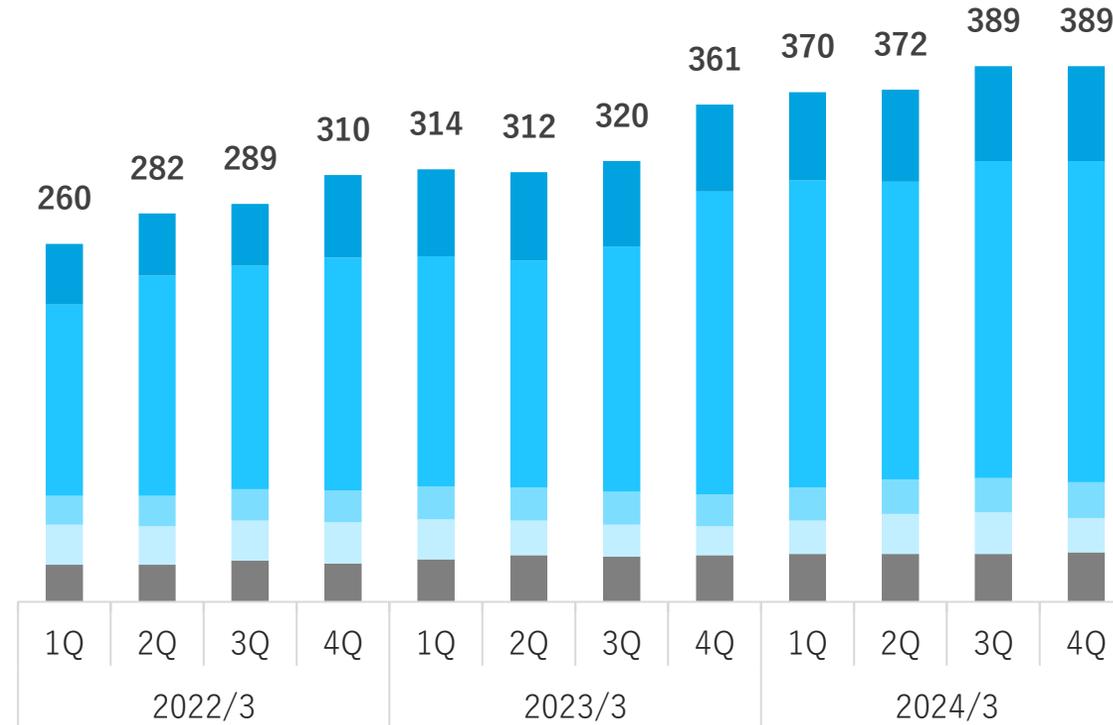
販売費及び一般管理費

- その他
- のれん償却
- 人件費
- 販管費率



役職員数（人）

- メモリ・PC関連デバイス・IoT
- 通信建設テック
- HPC
- その他



事業規模の拡大に従い、B/S規模も拡大

- 成長のための事業投資資金を確保するため、有利子負債が前期末に比べ約10億円増加、これに伴い現預金残高も増加
- 商材の確保により、棚卸資産が増加
- 順調な利益の積み上げにより、株主資本が増加

連結貸借対照表

	2023/3	2024/3	前期末比
流動資産	9,317	10,749	115.4%
現預金	3,444	4,168	121.0%
売掛債権	4,283	4,691	109.5%
棚卸資産	1,418	1,655	116.7%
固定資産	819	719	87.8%
資産合計	10,136	11,468	113.1%
流動負債	5,798	6,313	108.9%
短期借入金	3,050	3,450	113.1%
一年以内返済予定			
長期借入金	444	548	123.4%
買掛金	1,430	1,565	109.5%
固定負債	910	1,359	149.4%
長期借入金	702	1,190	169.5%
負債合計	6,709	7,673	114.4%
株主資本	3,126	3,419	109.4%
資本金	100	100	100.0%
利益剰余金	2,245	2,537	113.0%
負債・純資産合計	10,136	11,468	113.1%

売上高については増収も、成長投資による販管費増により 営業利益以下の各段階利益では前期に比べ減益、特損約2億円を計上

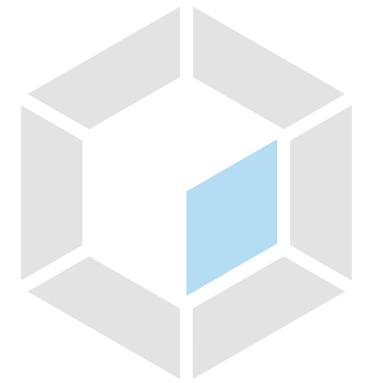
- 売上高に関しては堅調に確保
- 事業規模拡大のための人員の確保のほか、事業基盤の強化のための成長投資、M&Aにより取得した子会社ののれん償却などの影響により販管費が増加
- 2022年11月に連結したリーバン社に関し、自然災害等に起因した工期の遅れ及び売上の計上時期のずれ等による事業計画の未達により、のれん約2億円を減損し、特別損失が発生
グループ間シナジーを強化し、収益力の改善を図る方針

連結損益計算書

	2023/3	2024/3	前期比
売上高	15,007	15,848	105.6%
売上原価	11,425	12,171	106.5%
売上総利益	3,581	3,677	102.7%
販売費及び一般管理費	2,518	2,839	112.7%
営業利益	1,063	838	78.9%
営業外収益	28	33	117.0%
営業外費用	61	27	44.7%
経常利益	1,031	844	81.9%
特別損失	—	217	—
税金等調整前当期純利益	1,031	627	60.9%
法人税等合計	272	260	95.7%
当期純利益	758	367	48.4%
非支配株主に帰属する当期純利益	56	74	131.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	702	292	41.7%

03

2025年3月期業績予想



事業規模の拡大に従い、売上高は増収を計画するも、成長投資の継続により販管費が拡大し、営業利益は減少の計画

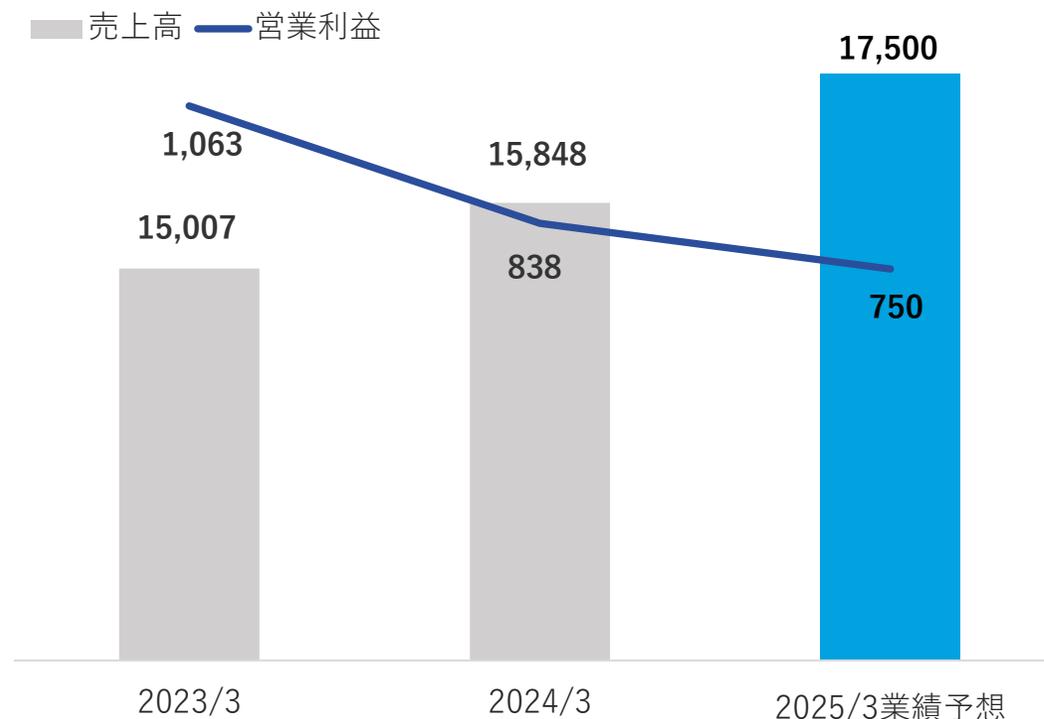
通期予想

売上高 : 17,500 前期比 : 110.4%

営業利益 : 750 前期比 : 89.4%

成長事業の拡大や、M&Aによる事業規模の拡大により売上高は増収を計画

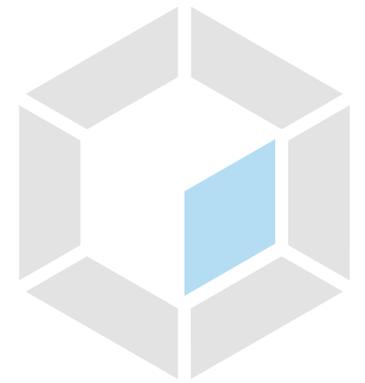
営業利益については、上記M&A及び新規採用による人員増、及び、社内管理体制の強化を推進するための投資による販管費の拡大等の要因から、減益を見込む



04-1

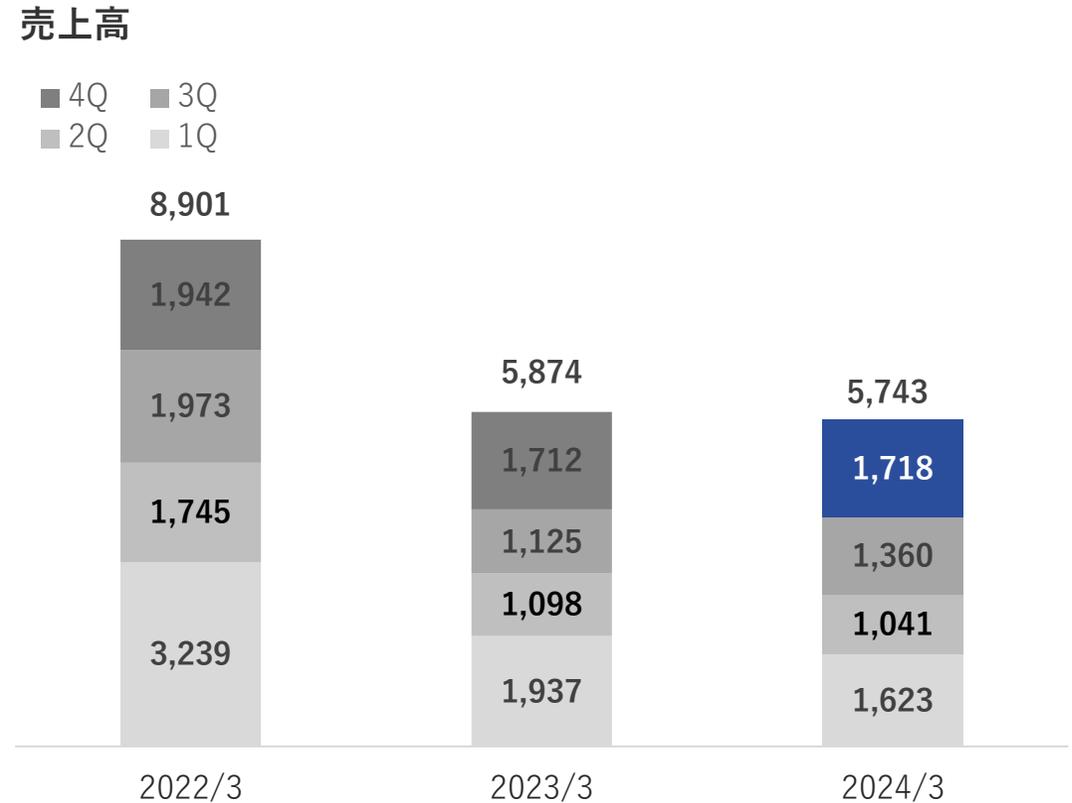
セグメント別概況

(メモリ・PC関連デバイス・IoT)



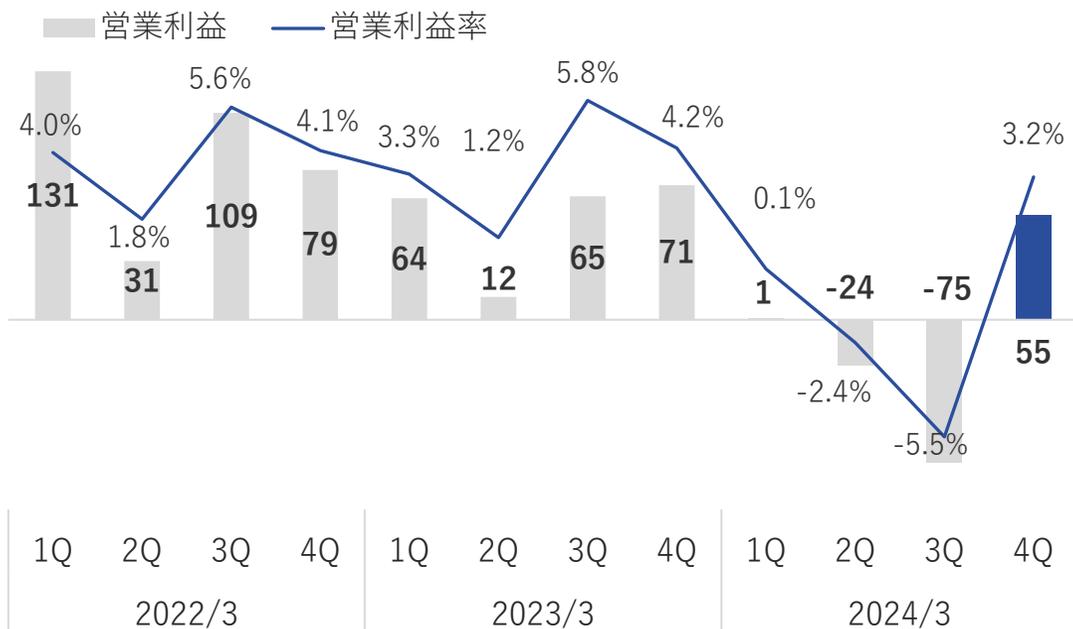
1, 2Qで苦戦も、前年並みの売上高を確保

- PC向け製品の需要は回復しつつあるものの、Windows11への移行を控え、大幅な伸びは期待できない環境
- 産業用製品の需要も回復しつつあるものの、長納期化対策需要が一服し、需要が安定するものとの認識
- 一部製品に関し開発の遅れ等が生じ、当初の予定に対し出荷に遅れが発生
- B2C向け商品の拡充を更に推進し、販路の多様化及び利益の獲得構造の多様化を図る
- 新規投入したフードテックに関する製品が4Qの売上高の獲得に寄与

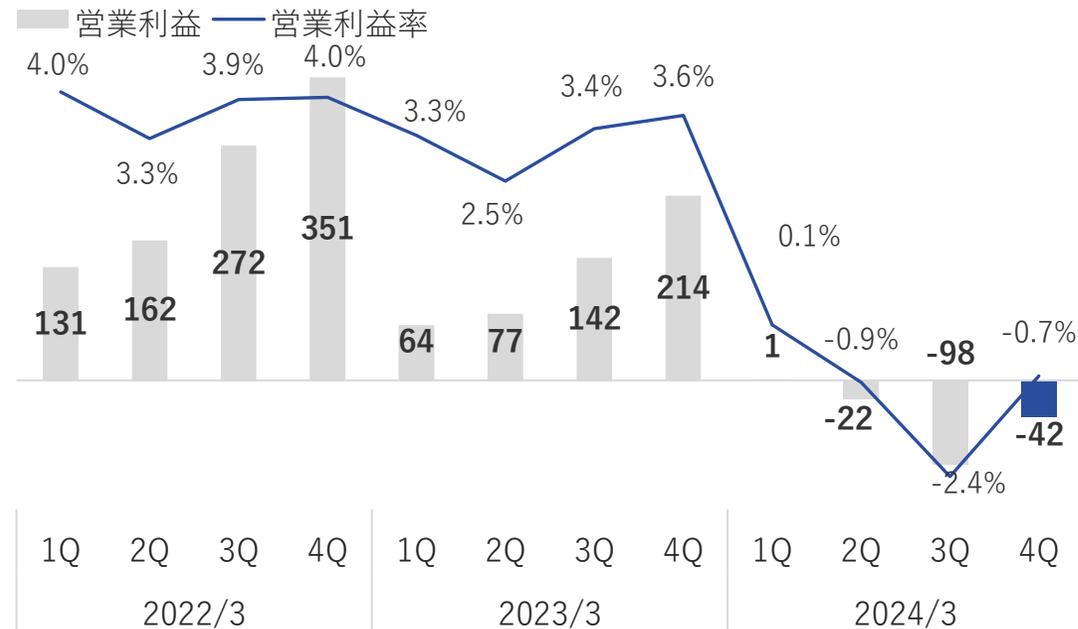


事業構造の見直し・成長投資が重く、営業損失42百万円を計上

営業利益 会計期間



営業利益 累計期間



- PC需要の落ち着き及びメモリ価格の高騰により、獲得利益が減少。また、コロナ禍による部材調達難に対応し実施した棚卸資産の積み増しに関し、評価損が発生
- 部材の調達難などにより電子部品の取得原価が高騰。代替品を利用したため、利益率の低下が発生
- 一部、開発の遅れや、販売開始が遅れた製品が発生したこと、主要案件の量産が次機種への切り替えを控え減産したこと等により減益
- 新規商材の検討・調達のための先行投資及び新製品の開発のための販管費の増加等により減益
- 新ビジネスモデルの構築により収益獲得構造の見直しを推進した結果、フードテックに関する新製品の投入により、4Qで利益を回復

台湾およびAsia地域のIT市場調査および情報収集、パートナー連携強化を目的として、台湾オフィスを2023年11月1日に開設

設立の背景

IT関連業界において、台湾企業が強い存在感を示し、半導体をはじめとする各種IT関連製品が大きなシェアを有しております。

当社は、より国際的なネットワークを構築すべく、台湾で直接、且つ多方面から迅速に情報収集を図りながら、効果的にビジネスチャンスを得ていくことと現在までに台湾を始めとするアジア圏における調達強化ため、台北市にオフィスを開設いたしました。

今後は、台湾IT関連市場における更なるパートナーとの連携を強化し、台湾での人材獲得も積極的に行い、当社のミッションである「新たな価値を創造するソリューションカンパニー」として、お客様や販売パートナー様へより良い製品やサービスをお届けし、さらには先端技術の調査・発掘を通しスマート社会の実現に貢献いたします。

株式会社アドテック 台湾オフィスの概要

名称：株式会社アドテック 台湾オフィス
現地名：日商雅德特股份有限公司 台湾辦事處
英文名：ADTEC Corporation (Taiwan Office)
所在地：台北市内湖区民權東路六段11巷37號
設立年月日：2023年10月17日

多様な用途に応じた、産業用/組込み用小型コンピュータシリーズを市場投入

「PE100A」

ARMプロセッサ搭載・Yocto Linuxプリインストールの産業用組込み/アプライアンス向けマイクロサーバ

PE100Aは、ARMプロセッサを搭載し、産業/組込み向けのLinuxOS Yocto4.0をプリインストールした小型コンピュータとなります。また、組込み向け以外にもアプライアンスサーバとしての用途にも活用いただける製品です。



「ARES-1980」 シリーズ

Intel®11世代Core™プロセッサ搭載のFA向けリッチI/O小型ファンレスコンピュータ「ARES-1980」シリーズ

ARES-1980シリーズは、Intel®11世代Core™プロセッサ搭載、FA向けリッチI/Oの産業用小型ファンレスコンピュータとなります。



「iBOX-250J」

高さ39mmの小型ファンレススリム筐体にCOMポートを3ポート搭載したコストパフォーマンスに優れた産業用エッジコンピュータ

iBOX-250Jは、高さ39mmの小型ファンレススリム筐体にCOMポート（RS-232C）を3ポート装備し、CPUはElkhart Lake J6412を搭載したコストパフォーマンスに優れた産業用エッジコンピュータとなります。



「iEP-7020E」 シリーズ

高さ39mmの小型ファンレススリム筐体にCOMポートを3ポート搭載したコストパフォーマンスに優れた産業用エッジコンピュータ

iEP-7020Eシリーズは、第13世代 Intel® Core™ プロセッサ(Raptor Lake-P)と Intel® Iris® Xe Graphicsによる強力なAI・画像処理性能を実装した産業用エッジコンピュータとなります。



産業用 堅牢タブレットPC 新製品「TBI4200-A1」を 2024年4月25日(木)発売

産業用 堅牢 タブレットPC 「TBI4200-A1」

主な想定利用 シーン

優れた耐衝撃・耐寒・耐暑・防水・防塵性能を兼ね備えた10.1インチ 産業用 堅牢タブレットPC 「TBI4200-A1」

TBI4200-A1は、-20℃～50℃という幅広い温度環境に対応し、122cmからの落下試験に合格。IP65準拠した設計で防水性・防塵性を兼ね備えた産業用タブレットです。

- ・ 雨風に晒される建設現場のような屋外利用
- ・ 機械の製造現場や食品の加工工場などの水滴や粉塵が気になる屋内利用
- ・ 振動や衝撃の影響がある車載利用
- ・ 様々な装置への組み込みが可能
- ・ 小売店や倉庫内での在庫管理 など



**Rugged Tablet
TBI4200-A1**

優れた耐衝撃・耐寒・耐暑・防水・防塵性能を兼ね備えた
10.1インチ 産業用 堅牢タブレットPC

intel
PENTIUM
inside™

- IP65準拠
防水・防塵
- MIL-STD-810G
122cm
落下試験合格
- 動作温度範囲
-20~50℃
- 投影型
静電容量方式
タッチパネル
- 内蔵バッテリー
+
交換可能
バッテリー

IoT事業の調理関連機器販売が好調。 調理油の大幅削減を行い、資源と経費の節約から持続可能社会の実現に 引き続き貢献してまいります。

フライヤー向け調理器具 の販売

食のグローバル化が急速に進展する中で、HACCP（ハサップ）を始めとした、食品安全管理の普及と実施が世界共通の課題となっています。

また持続可能社会の実現に向けた資源削減等に各企業が注目し、取り組みが進められています。

この様な背景から、フライヤーの油を削減出来るテクノロジーを搭載した製品の販売を開始し、お客様からご好評を頂き、当初想定を大きく上回る販売実績を獲得しました。

また、現在自動調理器具メーカーと共同で、当社が販売するCPUモジュールを使用した次世代の自動調理ロボットの開発や製品販売準備を進めています。

この他にも調理油の品質管理や、衛生管理に関係する製品開発などが進行中です。

お客様の声

日本橋とんかつー (HAJIME) はなれ



統括責任者 久恒 俊浩

こちらの製品を使用すると、厳選された食材の良さを最大限まで引き出してあげることができます。これにより、「お客様から本当に美味しい」とご評価いただき、毎日行列いただく店作りができていますと感謝しております。熱の入りが均等なのも特徴で、肉汁を閉じ込めた状態で美しい断面をお客様にお楽しみいただくことができます。また、導入前と比較すると油の温度設定も下げることができており、素材本来の旨味を引き出すだけでなく、油の劣化抑制や使用量の削減に繋がっています。光熱費削減効果も出ており、本当に革命的な調理機器です。



04-2

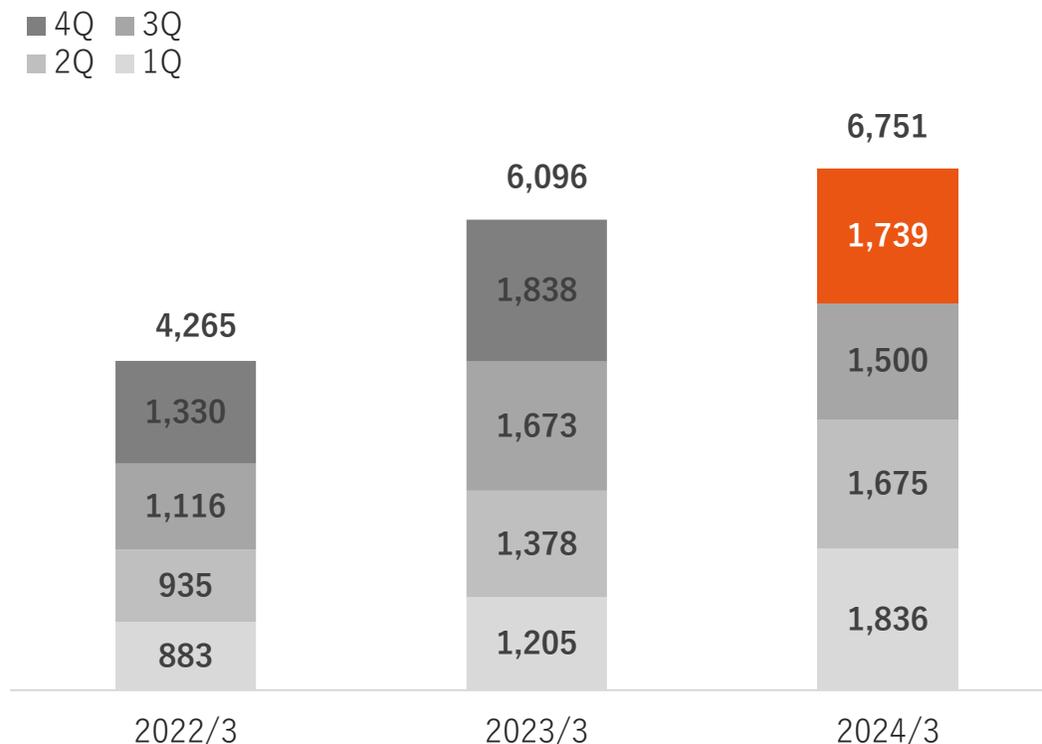
セグメント別概況 (通信建設テック)



M & Aによる事業規模の拡大等の要因により、過去最高の売上高を達成

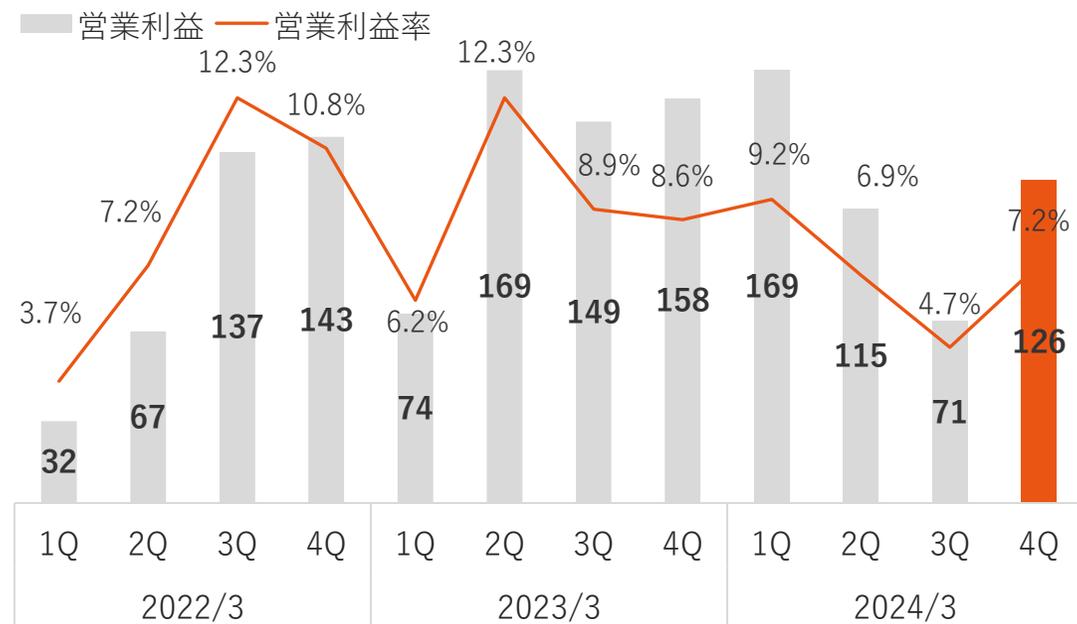
- M & Aにより取得したリーバン社が、売上高の拡大に寄与した事等の要因により、通期ベースで過去最高の売上高を達成
- キャリア3Gサービス終了に伴うマイグレーション工事の完工件数確保と各種通信建設工事の完工件数増加により売上高の拡大に寄与
- コンタクトセンター事業において各種新規案件の獲得を推進した結果、受注件数が増加し、ストック型の売上を拡大
- 既存事業の収益化及び新規案件の開拓を更に推進することで、更なる成長を図る方針。なお、4月付で中部日本エリアに強みを持つブランチテクノ社がグループインし、2Qから収益に寄与する見込み

売上高

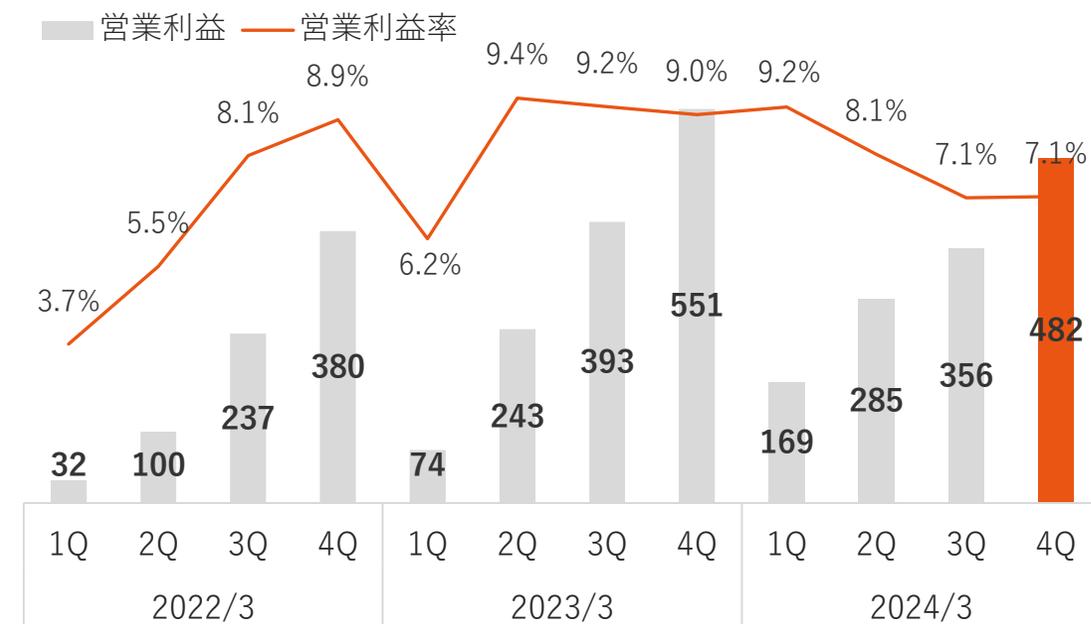


工事完工件数が順調に積み上がり、利益の獲得に寄与するものの、成長投資による販管費等が増加し、利益額については減少

営業利益 会計期間



営業利益 累計期間



- キャリア3Gサービス終了に伴う関連工事を中心に各種通信建設工事の完工件数が増加
- 通信建設工事におけるケーブル等の部材枯渇の影響は、4Qから概ね解消したものの一部工事は翌期に持ち越し
- 広告宣伝の実施及び事業推進体制の拡充等により事業体制の強化を図るため、販管費等が増加し、営業利益額は減少

プレスリリース

2024.03.29

M & Aにより株式会社株式会社ブランチテクノの株式を取得(子会社化) 全国の電気通信工事会社との資本・業務提携やM & Aを積極的に推進

- ・東海エリア全域の施工体制（リソース拡充、現場力強化、拠点増加）を強化
- ・ブランチテクノ社の保有する大手通信キャリアの主要な元請工事業者としてのノウハウを新たに加え、事業領域の更なる拡大を目指す



会社名 : 株式会社ブランチテクノ

代表者 : 代表取締役 杉浦 新介

所在地 : 愛知県名古屋市中村区名駅5丁目21番8号

事業内容 : 携帯電話の基地局工事を中心とした工事事業

資本金 : 3,000万円

許可・登録番号 : ●一般建築業(般-4)第61499号(2022年7月)
●一般派遣 派23-302697(2018年8月)
●登録電気工事業者愛知県知事登録 第180025号
●ISO9001認定取得ISAQ1376(2022年7月)



みちよば吉村のマブマブTV (Youtube) とのコラボ企画を第4回まで実施。
2人がバディネットと通信建設業界を掘り下げていくストーリーを展開。

なぜか、すごい。
バディネット

コラボ第一弾 Movie



みちよば、吉村に今後に関わる
ドッキリを仕掛ける

コラボ第二弾 Movie



マブマブCM会議を生配信!!

コラボ第三弾 Movie



みちよば人生初の名刺交換

コラボ第四弾 Movie



大手キャリア3社と、
なぜかすごい、リアル商談

プレスリリース

2024.02.08

みちよば吉村のマブマブTVとのコラボ第4弾動画 ソフトバンク・KDDI・楽天モバイルと、なぜかすごいリアル商談！



なぜか、すごい。
バディネット

第四弾ビデオ「ソフトバンク・KDDI・楽天モバイルと、なぜかすごいリアル商談！」

<https://youtu.be/ZTMDOL6cXYU>

今回、大手通信キャリアであるソフトバンク、KDDI、楽天モバイルに直接営業させていただくことで、各社が目指すビジョンが、当社のミッションである「不自由を減らすIoTの社会を創り、世の中をもっと笑顔にする。」と共鳴することを再認識しました。バディネットは、親会社である東証スタンダード上場企業のAKIBAホールディングスグループとのICTの徹底活用により、コストという最大の課題を越え、人とテクノロジーの力ですべてのモノが繋がる社会を創り守っていきます。

プレスリリース 2024.05.15

SNSメディア（note, wantedly, facebook）運用を開始 通信建設業界とバディネットを、世の中にもっとオープンに



「私がバディネットを設立した理由。」
創業社長が語るバディネットのあれこれ



「建設“女子”を超えた存在を目指して。
これがほんとの女性活躍！」



バディネットの福岡営業所ってどんなところ？
突撃してみた

なぜか、すごい。
バディネット



入社歴 = (ほぼ) 社歴。
創業メンバーにいろいろ聞いてみた



ぶっちゃけ工事ってどんな感じ？
現場担当者にインタビューしてみた！



通信建設業界歴25年！
ベテラン社員が語る、バディネットとは？

これまでにみちよばさんとノブコブ吉村さんを起用したCMや「なぜか、すごい。バディネット」特設ページなどで、クローズドな通信建設業界をオープンにしていく取り組みを行ってまいりましたが、より一層強化すべく、note、Wantedly、facebookといったSNSメディアを活用し、「通信建設業界とバディネットを、もっとオープンに。」をテーマに様々なコンテンツを発信していきます。

アルコールチェック代行サービスで、サービス提携先を拡大中 より多くの検知器やシステムとの連動が可能に

- プレスリリース 2023.04.11 株式会社パイ・アールとサービス連携
- プレスリリース 2023.10.23 ナビッドコム株式会社とサービス連携
- プレスリリース 2023.11.8 トリプルアイズ株式会社とサービス連携
- プレスリリース 2023.11.24 株式会社東計電算とサービス連携
- プレスリリース 2024.01.10 株式会社インフォセンスとサービス連携

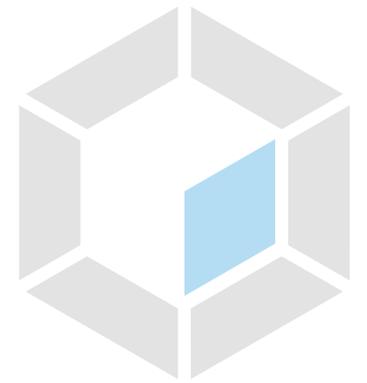
提携先企業一覧 (2024年2月現在)



引き続きサービス連携先の拡大に向けて取り組み、「**どんな検知器でも**」「**どんなシステムでも**」ワンストップ・低コストでアルコールチェック代行が可能なサービスを提供していく。

04-3

セグメント別概況 (HPC事業)

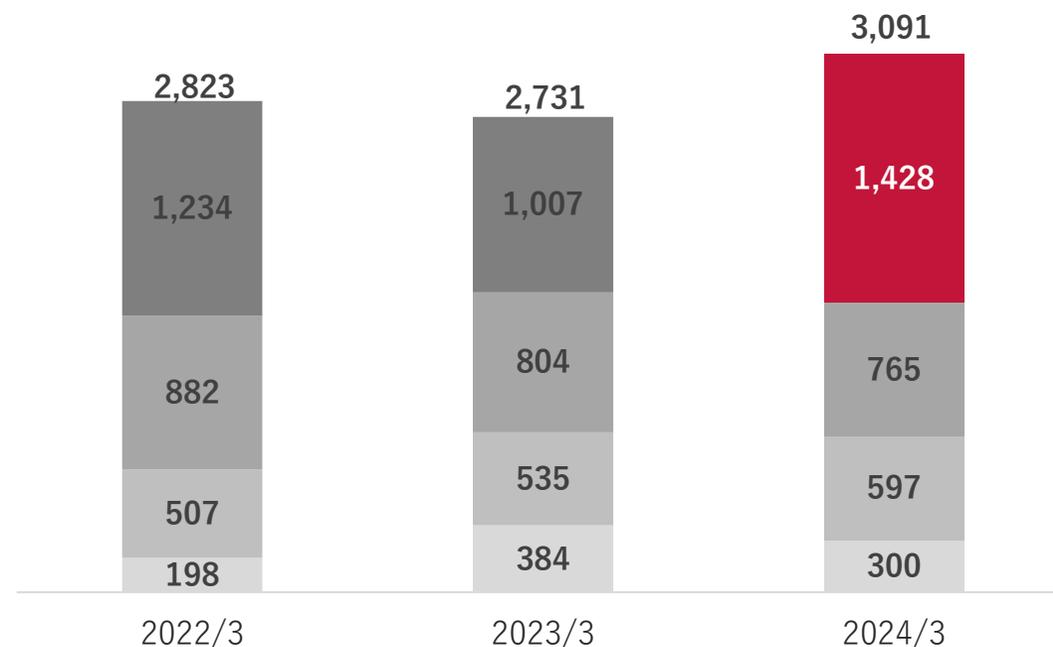


通期及び4Qで過去最高の売上高を達成

- 拠点増設、営業人員の確保及び販売力強化を推進し、
更なる収益力の向上に努める
- コロナ禍の影響により減少していた学会の再開が進み
対面販売の機会が増加、売上の拡大を推進
- 需要に応じた製品投入により、順調に顧客を確保

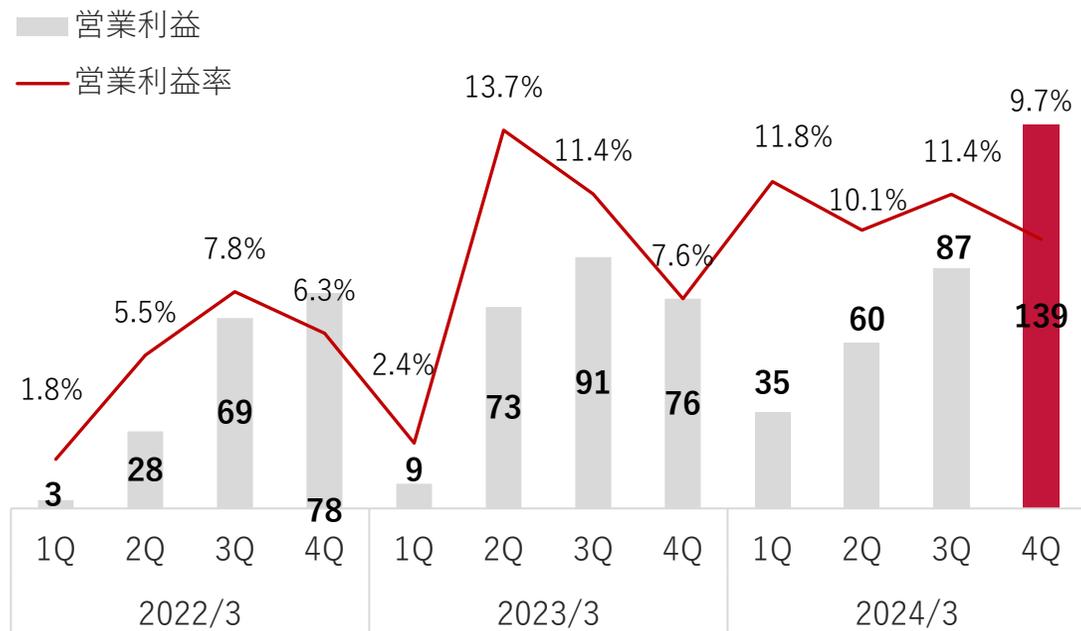
売上高

■ 4Q ■ 3Q
■ 2Q ■ 1Q

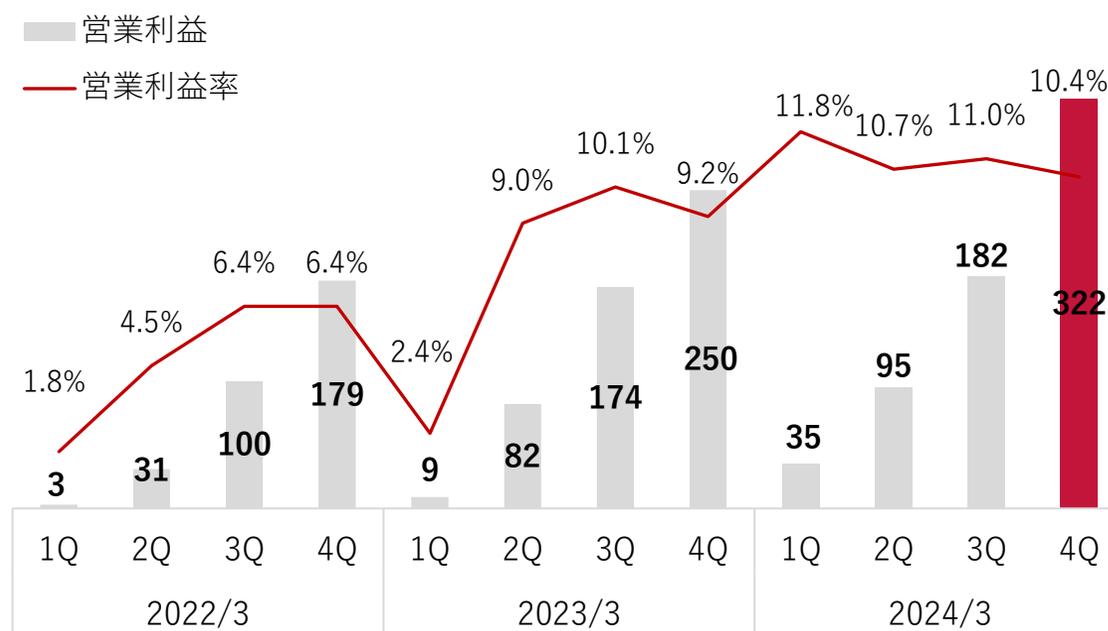


通期及び4Qで過去最高益を達成

営業利益 会計期間



営業利益 累計期間



- コロナ禍及びウクライナ危機による部材の調達難及び原価の高騰並びに円安の影響により、利益率の確保に関し懸念点があったものの、部材の先行取得及び付加価値の向上、需要に適応した製品投入を進める事により、好調に利益を獲得
- 学会の再開による対面販売機会が増加、キャンペーンカタログ等の販売ツールの充実を促進し、対面販売による収益機会の獲得向上にさらに努める

営業コンテンツの充実により、販売を促進

大規模AIの運用が可能な、**NVIDIA H100 NVL**の
取り扱いを開始

NVIDIA H100 NVL は、NVLinkブリッジで接続された 2基の
合計 188GB HBM3メモリ、帯域幅計 7.8TB/sを実現し、
H100 NVL GPUを搭載したサーバでは、GPT-175Bモデルの
性能を NVIDIA DGX A100システムの最大 12倍まで向上します。



NVIDIA RTX 6000 Ada
アカデミックキャンペーン
を実施

好評販売中の、レンダリングやAI、コンピューティング性能に
優れ、48GBメモリを持つGPU NVIDIA RTX 6000 Ada を
アカデミックキャンペーンにてご提供



04-4

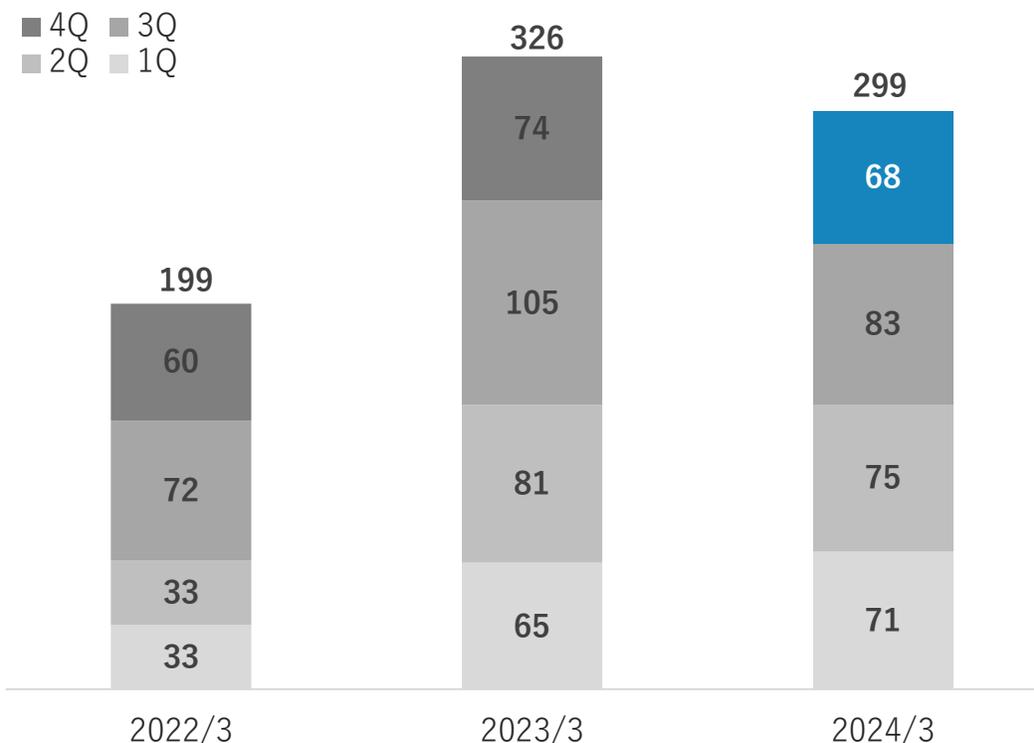
セグメント別概況 (その他事業－旅館事業－)



自然環境の影響により苦慮するも、堅調に売上高を確保

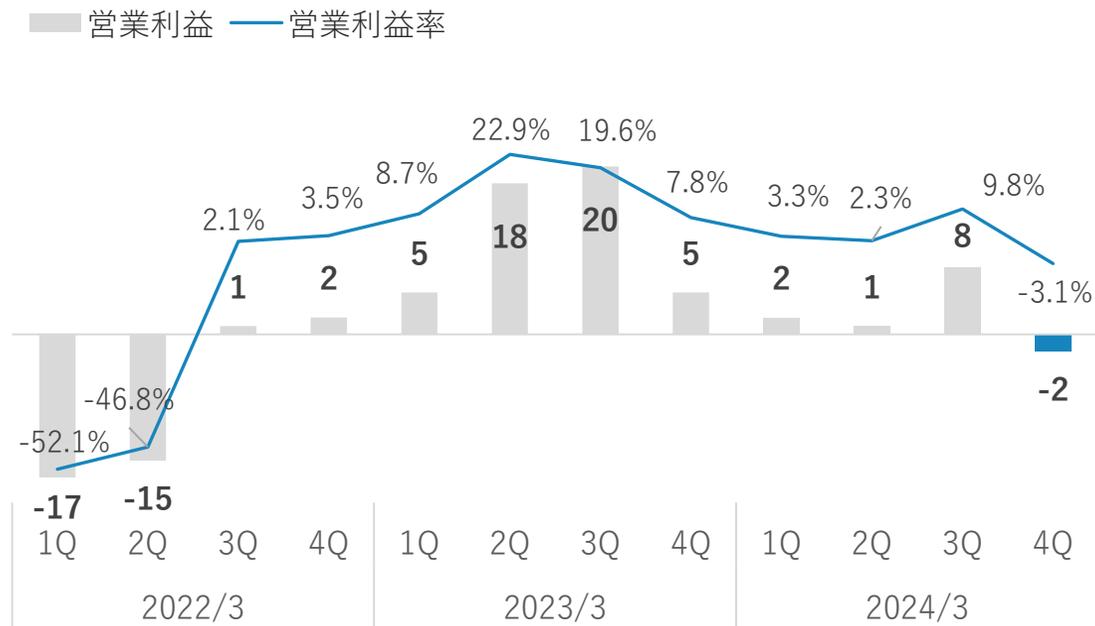
- 昨夏の猛暑及び紅葉時期の遅延により、通常の繁忙期での売上の確保に苦慮するも、営業努力により、堅調に確保
- コロナ関連の全国旅行支援割の終了等の影響により営業活動が苦戦。値段設定、広告等集客施策の効果的な利用により新規顧客の獲得を図るほか、リピート客の更なる掘り起こしにより、安定的な収益の獲得に努める
- 客単価の上昇、顧客満足度の向上に繋がる施策を展開することで客室回転率を上げ、売上の向上を図る方針

売上高

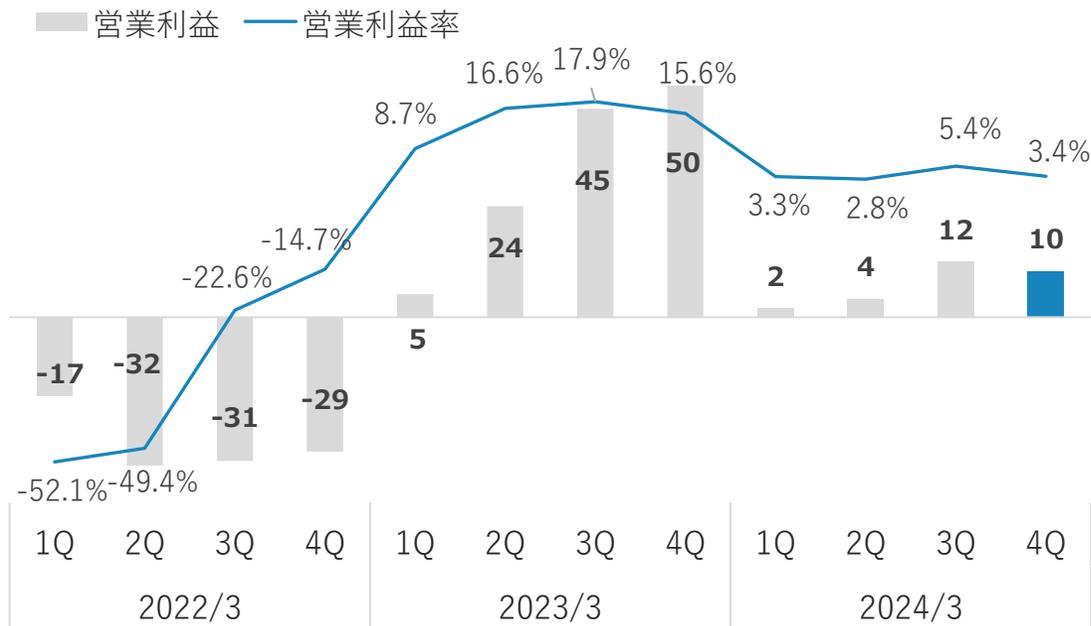


気候変動の影響により、収益の獲得が想定どおりに伸びず

営業利益 会計期間



営業利益 累計期間



- 昨夏の猛暑及び紅葉時期の遅延により、当初の予定通りの稼働を得られず、収益を期待どおりに獲得できず
- 改修により露天風呂付客室を増加。屋外・屋内ドッグランを改修するなどし、顧客満足度の向上を図る
- 追加オプションによる収益機会の多様化、価格プランの見直しにより、収益環境を改善

ペット同伴可能な宿泊施設として、他の宿泊施設と明確な差別化を図った事業



経験を積んだスタッフによるサービス

お客様の大切なペットに、ストレス無く過ごしていただける様に、十分な研修・経験を積んだスタッフによるおもてなしをご提供



ペット専用メニューをご提供

鬼怒川の名産品を取り入れた、彩りが溢れるペット専用のメニューをご提供



特別室などには愛犬用露天風呂も完備

お客様用の露天風呂の隣に愛犬用の露天風呂を備えた特別室などをご提供。お食事もおやすみもペットとともに過ごせます



ホスピタリティ溢れる接客により、同伴するペットにとっても最高の旅行経験とやすらぎの時間をご提供



伝統ある鬼怒川温泉でペットと共に温泉旅行を楽しめる

江戸時代中期に開湯された歴史と伝統のある鬼怒川温泉で、ゆっくりペットと温泉を楽しめる宿泊施設をご提供



格式高い純和風旅館

182平米の迎賓室をはじめ、専用露天風呂を備えたペットと共に過ごす事のできる大型の純和風の客室を多数用意



高付加価値サービスの提供

格安な宿泊施設では得られない、高付加価値サービスを提供することで、他のペット可宿泊施設との差別化を図る

改修工事を進め、収益性・顧客満足度の向上を推進



露天風呂付きの客室を増室

人気の高い、露天風呂付きの客室を増室
客単価の向上により更なる収益性の向上を期待



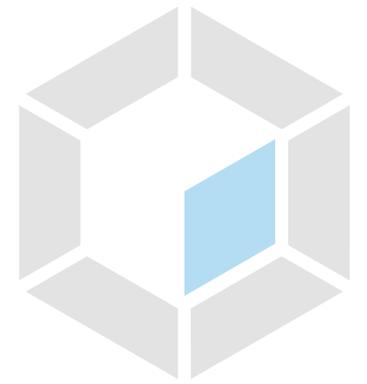
ドッグランをリニューアルし 顧客満足度の向上を図る

屋内・屋外ドッグランの整備・拡張を進め、
利便性を高める事により、顧客満足度の向上を推進



05

参考資料



商号	株式会社AKIBAホールディングス（旧株式会社アドテック）
上場市場	東京証券取引所スタンダード（証券コード：6840）
設立	1983年2月17日
資本金	1億円
事業内容	持株会社としてグループ全体の経営戦略の策定・推進、グループ経営の監査、その他経営管理並びにそれらに付帯する業務
決算期	3月末
役職員数	389名（連結 2024年3月末日）
本社所在地	〒104-0045 東京都中央区築地2-1-17陽光築地ビル Tel：03-3541-5068(代表) Fax：03-6260-6258

役員	代表取締役社長 堀 礼一郎 取締役 会長 馬場 正身 取締役 CFO 管理本部長 五十嵐 英 取締役 管理本部副本部長 富山 理布 取締役 グループ監査室長 後藤 憲保 取締役（社外） 丸山 一郎 取締役（社外） 黒部 得善 取締役（社外） 後藤田 翔 常勤監査役 内藤 城次郎 監査役（社外） 石本 圭司 監査役（社外） 西田 史朗 監査役（社外） 中川 英之 補欠監査役（社外） 藤浪 努
会計監査人	KDA監査法人
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社

1980年代	1983.2	株式会社アドテックを設立（商号変更により現「株式会社AKIBAホールディングス」）
1990年代	1993.6	パソコン用増設メモリモジュールの製造販売を開始
	1998.11	日本証券業協会に株式を店頭登録
2000年代	2004.12	ジャスダック証券取引所（東京証券取引所JASDAQ（スタンダード））に株式を上場
2010年代	2013.5	株式会社エッジクルー（株式会社アキバデバイス）を設立
	2015.1	株式会社バディネット（現 連結子会社）を買収
	2015.10	株式会社AKIBAホールディングスに商号変更、新設分割により株式会社アドテック（現 連結子会社）を設立、 純粋持株会社体制に移行
	2016.3	iconic storage株式会社を買収
	2017.1	株式会社HPCテック（現 連結子会社）を買収
	2019.7	ウェブソリューション事業を株式会社バディネットに移管、通信コンサルティング事業に統合
2020年代	2020.5	株式会社ダイヤモンドペット&リゾート（旧 株式会社AKIBA LABO福岡）にて新規事業 （ペット同伴温泉旅館「鬼怒川 絆」の運営）開始
	2020.10	ペット同伴温泉旅館「鬼怒川 絆」 グランドオープン
	2020.10	株式会社バディネットが株式会社トランテンエンジニアリングを買収
	2021.4	株式会社バディネットがiconic storage株式会社と株式会社トランテンエンジニアリングを吸収合併
	2021.10	株式会社アドテックがシーアールボックス株式会社を買収
	2022.4	東京証券取引所の市場区分の再編に伴い、東京証券取引所スタンダード市場へ移行
	2022.10	株式会社アドテックがシーアールボックス株式会社を吸収合併
	2022.11	株式会社バディネットが株式会社リーバン（現 連結子会社）を買収
	2022.12	株式会社エッジクルーから株式会社アキバデバイスに商号変更
	2024.1	株式会社アドテックが株式会社アキバデバイスを吸収合併
	2024.4	株式会社バディネットが株式会社ブランチテクノ（現 連結子会社）を買収

Business Domain

DXを次のステージへ

先進的なサービスを有するビジネスが集結

AKIBAホールディングスグループは多様なカテゴリーで社会全体のDX推進に取り組み発展させていきます。

